

# 若き保姆としての初経験を語る



日頃から保姆としての私にまつて、善き教師となり善き友となり、又我が心の血も肉もなるやうに思はれて、隅から隅までむさぼるやうに讀ませて戴いてゐた「幼児の教育」の二月號にふき「保姆の初経験を語る」の原稿募集を見出しました。そつだ。自分も保姆の初経験をした一人なのだ。やがて滿一年になる保姆の生活。此の紀念すべき時に當つて、何か語るべきことがあつて然るべきだを考へたのであります。

\* \* \*

思へば、私が保姆になるさいふこと、それは今から一年前までは考へてもみなかつたことでした。保姆としての正

東京 森村幼稚園保姆 清水貞子

式の勉強を少しもしてゐなかつた私でした。唯女高師で教育の時間に我が尊敬せる倉橋先生から、フレール先生のこゝや、「幼児の自發活動について」等さいふ御講義を、興味深くノートしてゐたにすぎませんでした。その私が縁あつて去年の四月櫻咲く陽春のよろこびと共に、始めて相見ゆる幼な兒に接するうれしさを胸一杯にあふれさせながら此の幼稚園に來たのでした。それから今日に至る一年間の経験は私にまつて何さいふ紀念すべき尊い月日だったのでせう。今私はしむく、自分の現在の仕事の如何に尊く清いものであるかを……如何に得難いめぐまれた生活であるかを、心から思つて見てゐるのであります。

けがれなき雪のやうに純情な彼等の心。何等の虚飾なき羽二重のやうに美しき彼等の心の肌。天真爛漫な彼等の童心。まごこの人間の姿をいみじくも惜し氣も無くさらけ出して全き心まごこの接觸をなし得る彼等の生活。幼な兒等と共にあるまき、これら神の子の限りなき美しき姿を目的あたりに見て、唯我が心の如何にみにく、けがれてあるか、我が心の肌の、彼等に觸れるべくはあまりにあれてあらずや如何に邪氣に満ちく、唾棄すべき我が心であるかを切實に思はせられたのでありました。少しでも彼等の心に近付かう、少しでもまごこの人間の姿に立ちかへりたいさいふ願ひで、此の一年間の尊き經驗は、實は私にまつては、幼な兒に與へるべき何物もない、私自身に神から與へられた非常に大切な時だつたのでした。

\* \* \*

「保姆の經驗を語る」。それは私には甚だ僭越なごまご思つてゐます。ミても自分の貧しい經驗なきを語る資格はないと思ふのであります。殊に保姆として正しく養成されてゐない私は、幼稚園に於ける毎日が、何から何まで疑問

だらけの實に自信の無い保姆なのです。しかしやはり私も保姆の一人として、まづ、いいながらも眞剣にその道を歩もうと努力して來ました自分の姿を振りかへつて見ます。まき、何かしら感じたまゝを洩らして見たいやうに思つたのでした。

\* \* \*

幼い子等と共にあるごま、それは何さいふむづかしい事なのでせう。あのやはらかい純な魂を、このむくつけき大人の心は、何かにつけておしひしけてゐるのではないでせうか。あの無邪氣な天真爛漫な彼等の尊き童心を、このかたくなな憎むべき大人の心は、何かにつけて、おしつけやうく、ごしてゐるのではないでせうか。時々ふきそのやうなものをも自分の心の中に見出して、その罪のおそろしさに戰慄するのです。自分の氣の付かない間に如何に度々この様な罪を犯してゐるのではあるまいかと思ふまき、はかり知れぬ罪の深さご寂しさを感ずるのであります。

私の友達に會ふご必ずたづねます。「女學生を教へてゐた後で幼稚園へ行つたら、のんきでミてもいゝでせう」

こ。併しこれはほんごうの子供さいふものを知らない人の言ひやうでせう。幼稚園の保母こそほんごうにむづかしい仕事です。対象が神のやうに純で羽二重のやうにやはらかな心の肌を持ち主だけに、いゝかけんにすまされない或犯しがたい物を感じて、保母の仕事の容易ならぬむづかしいものであるこをしみじみ思つたのでした。

いつか「幼児の教育」に倉橋先生の味ふべき御言葉を見出し得て、心から敬服し心から感激したこがございました。それはこいふ御言葉でした。

「子供の心もちは生きてゐる。その心もちを汲んでくれる人、その心もちに觸れてくれる人だけが子供にこつてうれしい人、有難い人である。

子供の心もちは、極めてかすかに、極めて短い。濃いい心持ち、久しい心もちは誰でも見落さない。かすかにして短き心もちを見落さない人だけが子供と俱にゐる人である」

こ。

あゝ、何こいふ尊い御言葉でせう。ほんごうに私も子供

のかすかなく心。淡い短い心、それを見落すまい。その心もちに情を同じうするのでなければならぬこいふこもが、此の一年間の経験で少しづつ分りかけて來てゐるやうなうれしさを感じます。子供はそのかすかなく、言葉に言ひあらはせないほきにおは、自分の心の動きに對して、先生が無言のほゝえみと共にやさしい手をのべてやはらかに、觸れてくれた時、みんなに無上のよろこびを感ずるこでせう。私はその子供のよろこびを我がよろこびとし、てよろこびたいこいふ得難い心を、此の一年間の経験が尊くも私の心に植えつけてくれたのでした。

\* \*

同じ神の子にも實に種々様々のあるこを幼稚園に來てしみじみ考へさせられました。顔貌のミのへるものミのぼるもの、整頓せる頭腦を持てるものミ、霧のかつてゐるやうにぼんやりした頭腦を有するもの、すばらしい才能を有するものミ然らざるもの、こいしてこんなにも不公平なこがあるのでせう。彼等は一樣に愛すべき童心にめぐまれて、それ／＼に生活を生活してゐるののですのに、

何こいふ不公平なここなのでせう。顔かほのここのはざるもの、ぼんやりした頭腦かみのもの、彼等は好んでそのやうに生れて來たのではないでせう。整頓せいとんせる頭腦かみの持ち主、すばらしい才能たのめの持ち主、彼等かれらでも自己の意志によつてそのやうに生れて來たのではないでせう。それらよきもあしきも、それらかれらに無心に活動する姿を眺めるみき、測り知りがたき神の攝理しやくりの前に、何こもいへない感あはれに打たれるのです。

\* \* \*

子供の口を衝ついて出る言葉の何んなんこ意義いぎ深く面白いものでありませう。子供の心はまここに奔放自由です。大人の想像も及ばないあらゆる世界に飛んで行きます。そしてそれがみんな言葉になつてあらはれます。私はそれを書きこるべく小さな手帳をふここころにしのばせてゐます。

ほいえましい子供の言葉、味ふべき子供の言葉、私共は子供の言葉に教へられるここが澤山あるやうに思ひます。保母になつて始めて子供の言葉の如何に尊くも味ふべきものであるかを知りました。

「幼児の吐露する片言に子供の住む世界が窺はれ、子供の持つ人間性が見られ、子供の伸びる將來が暗示されて居ます。人の子の親も教師も幼児の言葉にまづ耳を傾け心に味つて見るべきであると思ひます」ここいはれたさる方の御話をうれしく讀んだここを思ひ出します。

\* \* \*

子供はなんなんいふ神秘的なばかり知れない存在なのでせう。私共の目に見るここを許されてゐない聖せいい天使の姿のやうに、大人の世界せかいを全くちがつた別の世界に潑刺しやくししてままび廻つてゐる彼等の姿。我々のその子供の世界に入り込むここの何なんいふむづかしいここよ。その困難なここを思ふおもき、私はよよほほここの勉強をするのでなければわが愛する子供に對して大變に申しわけがないなんいふ緊張を我が身にひしひくく感あはれするのであります。しかしてままここに幸福なここは、我が幼稚園に心から尊敬すべき先輩の居られて、何かにつけて至らぬ自分に親切な指導を受け得るここです。その子供の心を思はれる深ふかい御心、私の淺はかな思慮の到底はかり知るここの出來ない保育に關する細こまい御心

づかひ、それらの片鱗をうかがふここの出来る毎日をほん  
まうにうれしく思ふのです。

\* \*

心から尊敬して止まない先輩のもで、我が心を信じ切  
つてひたむきにその神の心を寄せてゐてくれる愛しき幼な  
兒等と共に、生き甲斐ある生活を爲し得る現在を、虔敬な



「なんだかやさしさうな先生だね」。始めて登園した所、  
お遊びの時に始めて先生と呼ばれてピアノを弾くこみを所  
望されてキーに手をふれた時だった。

男の子のくせに女の子の様な聲を出して女の子さばかり  
遊ぶ白い毛糸服に長めのエプロンをかけた子が私の横顔を  
ジロ／＼見ながらそばの女の子にさゝやいた言葉。新米  
の先生を子供でもやはり批評眼を働かせて見るのだナーまほ  
ほえみながらチラミ子供の顔を見た時に恥かしさうに面を  
ふせた内氣な子、すつミ前から幼稚園に來てゐるらしく、

る心もて感謝すると共に、この神の恩寵に報いんがために、  
乏しい自分を磨くべく更に心に鞭打つて保育の道に精進し  
たいと思ふばかりであります。この道こそは、實に長く自  
分のさがし求めてゐた清く尊い我が使命であるこみを、一  
年間の保姆の生活が教へてくれたのであるこみを、今にし  
て始めてしみ／＼考へてみるのでした。(八、三、一七)

山口市 白石幼稚園保姆 寺田 明 惠

かなりおませらしい連中はグループを作つてはしやぎ廻つ  
てゐる。

四月のこみで先生方のお手がたりない見えて淋しさ  
うに皆の遊びを見てゐた女の子が少しづつ私の方へ寄つて  
來てこわ／＼私の手をこつた。

ほ／＼づりしてやりたい様な血氣の良い頬、黒の腫、フサ  
／＼したオカッパ、やはらかい嗅げばお乳の匂ひのしさう  
な可愛い手、弟妹を持たぬ私はすべてのこみがたまらなく  
可愛かつた、その表情が、その動作が……